

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.113

2009/04/25

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

「総見山」三角点から望む 山門湿原 (09/04/18)



中央湿原から見上げる「総見山」(09/04/18)

当日 10 名の会員と 2 名の飛び入りで、観察コースの「守護岩」からルートの無い県境沿いのヤブこぎで総見山に到達しました。頂上からの景観は、抜群で東側にはトップの画像のような地形が眺望出来ました。湿原の部分を見望で撮影したのが右の画像です。この画像で中央湿原から北部湿原にかけての地形が断層によるものであるということが良く分かりました。「山門水源の森報告集」Vol.2 で笠原他に、この断層の活動は 16 万年前に遡るとの報告もあります。ややモヤっていましたが霊仙山や琵琶湖の眺望も格別でした。

「山門湿原」は、かつての断層活動によって形成され、湿原には過去 3 万年間の堆積物があることは既に会員のみなさんには熟知して頂いていることある。湿原への入口に当たる「展望所」(昨年除伐を行い湿原がよく見える所)は、断層崖の上の平坦地であることも周知されていることと思います。しかし、実感として湿原が断層活動によって形成されたというイメージを描くのは困難を伴います。このギャップを埋めるため 4 月 18 日には「会員研修」ということで、湿原を上から見ることにしました。



中央湿原～北部湿原のアップ画像 (09/04/18)

## 9年目に入った保全活動の認知度上昇



2001年に本会が発足以来、実に地道に生物多様性保全のための活動を実施してきました。この間続けてきた活動には、観察コース沿いの毎年わたる草刈、5年間を要した北部湿原の復元作業、絶滅危惧種の再生作業等々があります。いずれも大きな成果をあげつつあります。2008年度を例にすると保全活動172人・調査65人・ガイド143人・パトロール39人・楽舎当番88人・その他65人（いずれも延べ人数）、森での実活動日数は190日を超えています。この数値は、会員のみのものであり、この他に各種の団体のご協力頂いたものを加えると年間700人を越える方々がこの保全活動に関わって頂いたことになります。この活動の成果は、日々インターネットや各種報道機関によって公にされています。その成果の大きさは、各方面に注目されるようになり今年度に入っても他府県を含む各種「自然保護」団体からも関心を寄せられ、視察・ガイド依頼・講演依頼等が続いています。これは、ひとえに会員の日

々の活動の反映だと喜びつつも、ガイド依頼等の殺到には複雑な思いもいただいています。というのは、本会の設立主旨の第1は、「山門水源の森の西部多様性を保全し、次の世代に引き継ぐ」ことであって、来訪者が増えることで成果有りとするものでないことです。地道に生物多様性を保全する活動が前進すること、そのことが注目を浴び来訪者が増加するというジレンマです。2003年「やまかど・森の楽舎」設立時に創成した付属湿地には、2つのねらいがありました。もちろんオオミズゴケ湿地の創成は、全国で初めてかも知れませんが、今見事なミズゴケ湿地になっています。この湿地は、上の湿原へ来訪者が入れない代償として、湿原に生育する植物を種子採取から育成植栽し、間近で観察出来るようにすること。もう一つは湿原で万一消滅する動植物があった場合、湿原に戻せる状態に植物を維持することです。この両者は、当初の私たちの想像を超えるほどうまく推移しています。予想もしなかったトンボ類の棲息、上の湿原ではシカ・イノシシの獣害で減少しているミツガシワが年々隆盛をきわめるといった事実です。今後全国的にも保全活動の事例となることが多いと思われます。付属湿地のもう1つの事例をあげると、4月19日9時20



付属湿地で観察者の目前で展開するオオシオカラトンボの羽化 (09/04/19)



分布を拡大するオオミズゴケとノハナショウブ けには止まりません。全て会員の力がつくってきたものです。これより大仕掛けな展開が期待できるのが、北部湿原の復元です。昨年の12月13日の通水以来既にオオミズゴケの分布拡大という事実も確認出来る段階となっています。夏には多くのトンボの産卵も期待できます。他方で来訪者の安全対策作業も・・

分に見られたシオヤトンボの羽化の状態です。上の画像は、幅30cm四方の範囲に同時に観察出来たものです。時間経過はゼロです。羽化のいろいろな段階が、時間経過無く観察出来るという素晴らしい湿地となっています。観察者の目の前でこれほどの大ドラマが展開されているのを観察出来るという特別な場所です。これを創成出来ただけでも大きな成果ですが、ことはそれだけに止まりません。全て会員の力がつくってきたものです。これより大仕掛けな展開が期待できるのが、北部湿原の復元です。昨年の12月13日の通水以来既にオオミズゴケの分布拡大という事実も確認出来る段階となっています。夏には多くのトンボの産卵も期待できます。他方で来訪者の安全対策作業も・・



四季の森の木橋の付け替えをする会員 (09/04/18)